

トナミ運輸&第一貨物&久留米運送

幹線の共同運行拡大

モーダルシフトも推進

トナミ運輸（綿貫勝介社長、富山県高岡市）、第一貨物（武藤幸規社長、山形市）、久留米運送（二又茂明社長、福岡県久留米市）の中堅特積み3社は、幹線の共同運行及び施設の共同利用、更にモーダルシフトなどの取り組みを加速させる。

トナミ運輸と久留米運送は、7月から北陸―九州で12号鉄道コンテナによる利用運送を開始。現在、北陸から九州向けのワンウエー輸送になっているが、今後、相互の輸送効率化に向けた取り組みを強化していく。更に、第一貨物と久留米

運送では、東北―九州で運行車両の相互使用による「シェークハンド運行」を1日から開始。中間地点となる北大阪トラックターミナル（大阪府茨木市）で両社のドライバーが入れ替わり直行便運行を行うもので、現行の1日1便の運行

から、近く2便体制に増便する。
トナミホールディングス及び第一貨物、久留米運送の3社は昨年9月、共同出資会社のジャパン・トランズ・ライン（JTL、坂田昭雄社長、東京都大田区）を設立し、関東―関西の幹線共同運行を開始。その後、3社及びJTLとで九州直行便について協議する中で、今回の取り組みが実現した。引き続き、3社は貨物の往復バランスなどを考慮しながら共同運行やモーダルシフト推進を拡大していく。（高木 明）

中継拠点で乗務員交代

第一貨物と久留米運送は1日、北大阪トラックターミナル（JTL、大阪府茨木市）で、運行車両の相互使用による「シェークハンド輸送」の出発式を行った。

第一貨物天童支店（山形県天童市）と久留米運送大分支店（大分市）をそれぞれ前日夜間に出発した10台車が、午前10時に中継拠点の北大阪JTLに到着。点呼と車両・積荷の点検を済ませ、第一貨物のトラックに久留米運送のドライバーが、久留米運送の車両には第一貨物の乗務員が乗り込み、それぞれ目的地に向けて出発した。

出発に先立ち、第一貨物の鈴木真人常務と久留米運送の岩田裕之常務がドライバーに花束を贈呈。「記念すべき第一便。無事故でお願います」と激励した。

両社は従来から東北―九州の相互間輸送で協力関係にあり、これまでは北大阪JTLで荷物を積み替えていた。

車両を相互使用すれば荷役が不要になるため、輸送時間の短縮と荷扱い事故の防止を図ることができる。山形から大分へのリードタイムは半日短縮される。

（小菓 史和）

第一貨物&久留米運送

「シェークハンド輸送」出発式

第一貨物の鈴木常務（左から2人目）と久留米運送の岩田常務（右端）がドライバーに花束を贈呈

